

# 生涯学習の場としてのレクリエーション講習会に関する一考察

高柳 竜 一<sup>1)</sup>

## A Consideration of Recreation Sessions as Lifelong Learning

Ryuichi TAKAYANAGI

平均寿命とあわせて健康寿命の延伸がさげられる中、レクリエーション活動に参加して身体を動かす機会や、レクリエーションに関する学習、資格取得に取り組む場の設定など生涯学習としてレクリエーション活動に参加する機会をもつことも健康の維持・増進を図る上で有効である。そこで、実際にレクリエーション講習会に参加した受講者がどのような視点で学習に臨んでいるのかについて実態調査をおこない、より良い生涯学習の場のもち方について考察した。その結果、講習内容もさることながら、講習に集中できる学習環境の整備が大切であると分かった。また講習会全体の満足度が高いからといって、それにより受講料が妥当ないしは安いと感じるとは限らないことが分かった。加えて福祉・保育関係の職場で働く中高年女性のスキルアップの場としてレクリエーション講習会が活用されていることが分かった。

キーワード：生涯学習、レクリエーション講習会、学習環境、スキルアップ

### 1 はじめに

筆者は、平成16年4月から愛知県レクリエーション協会（以下、愛知県レク協会）のボランティアスタッフとして、愛知県レク協会主催の日本レクリエーション協会公認レクリエーション・インストラクター資格取得講習会（以下、レク・インストラクター養成講習会）の運営に携わっている。平成26年からは、レク・インストラクター養成講習会の運営責任者である愛知県レク協会の指導者養成部部长として、レク・インストラクター養成講習会の企画・運営を主体的におこなっている。この活動の中で、講習会に参加した中高年の受講者がいきいきと受講する姿を見て、人々が心豊かに暮らしていける社会の実現のためにより良い生涯学習の場が求められていることを実感している。

平成18年版文部科学白書においても、第2部第1章第1節1「生涯学習の意義」の中で、生涯学習社会の構築が必要な第二の理由として、「自由時間の

増大などの社会の成熟化に伴い、心の豊かさや生きがいのための学習需要が増大していることです。これらの学習需要にこたえるための生涯学習の基盤を整備することは、学習者の自己実現のみならず、地域社会の活性化、高齢者の社会参加・青少年の健全育成など、社会全体にとっても有意義です。」と記述されている。

では、どのような学習環境を整えれば、より良い生涯学習の実現につながるのだろうか。そこで本稿では、筆者が携わった平成27年度から平成29年度の3カ年のレク・インストラクター養成講習会（表1）において、その受講生に実施したアンケート結果を紹介し、若干の考察をおこなうことにしたい。

### 2 方法

レク・インストラクター養成講習会の受講者に対して、最適な学習環境を提供する基盤として、下記のように実態調査をおこなった。

1) 中部学院大学事務局職員

表1 レクリエーション・インストラクター資格取得講習会(平成27年度～平成29年度)

平成27年度 プログラム

受講料(円)			会場	回	月日	時間	区分	科目名		単位	学習テーマ				
全課程	各回	コマ取り													
28,000	2,700		軽運動室	第1回	5月24日(日)	9:45～10:00					受付				
											開講式				
		1,000							10:30～12:00	A1	理論	基礎理論	1.5	レクリエーションの意義	
									12:00～13:00						昼食
		1,000							13:00～14:30	D3	実技	コミワークⅢ	1.5	和やかな雰囲気をつくる技法「アイスブレイキング」とは	
		1,000							14:30～16:00	D4	実技	コミワークⅣ	1.5	アイスブレイキングのプログラミング	
									16:00～17:00						オリエンテーション(資格取得に先立って)
	3,000 ※事業参加の場合2,000	1,000*1		大会議室	第2回	6月7日(日)	10:00～12:00	B2	理論	支援論	2.0	少子高齢社会の課題とレクリエーション			
													昼食		
		1,000							13:00～14:30	F1	実技	レクワーク	1.5	対象にあわせたレク・ワークとは	
		1,000							14:30～16:00	F2	実技	レクワーク	1.5	対象にあわせたアレンジ法の応用	
									16:40～17:00					オリエンテーション	
	3,900	1,000		軽運動室	第3回	6月21日(日)	9:30～11:00	B1	理論	支援論	1.5	ライフスタイルとレクリエーション			
		1,000							11:00～12:30	B3	理論	支援論	1.5	地域とレクリエーション	
		1,330							12:40～14:40	G1	演習	演習1	2.0	自然の中で遊ぶ(昼食含む)	
		1,000							15:00～16:30	G2	演習	演習2	1.5	保育士が教える子どもとの絆を強くするレクリエーション	
									16:30～17:00					オリエンテーション	
	3,300	1,000		第3競技場	第4回	7月5日(日)	9:30～11:00	E2	実技	レクワーク	1.5	素材・アクティビティの選択			
		1,000							11:00～12:30	E3	実技	レクワーク	1.5	素材・アクティビティの提供	
									12:30～13:30					昼食	
		1,660							13:30～16:00	H1	実技	演習6	2.5	記録に挑戦! チャレンジ・ザ・ゲーム	
									16:00～17:00					オリエンテーション	
	3,600	1,000		大会議室	第5回	7月12日(日)	9:30～11:00	A2	理論	基礎理論	1.5	レクリエーション運動を支える制度			
		1,000							11:00～12:30	A3	理論	基礎理論	1.5	レクリエーション・インストラクターの役割	
									12:30～13:30					昼食	
		1,000							13:30～15:00	E1	実技	レクワーク	1.5	目的にあわせたレク・ワークとは	
		1,000							15:00～16:30	E4	実技	レクワーク	1.5	対象者の間の相互作用の活用方法	
									16:30～17:00					オリエンテーション	
3,600			大会議室	第6回	8月9日(日)	9:30～9:40					開会式				
	1,000							9:40～12:40	G3	演習	演習3	3.0	”脳と身体に効く”レク”を学ぶ		
	1,000							G4	演習	演習4					
								12:40～12:50					閉会式		
								12:50～13:50					昼食		
	1,000							13:50～15:20	D1	実技	コミワークⅠ	1.5	ホスピタリティとは～おもてなしの心を学ぶ～		
	1,000							15:20～16:50	D2	実技	コミワークⅡ	1.5	心地よく安心して楽しく～ホスピタリティの示し方～		
								16:50～17:00					オリエンテーション		
3,600	1,000		大会議室・野外	第7回	8月23日(日)	9:30～11:00	C1	理論	事業論	1.5	レクリエーション事業とは				
	1,000							11:10～12:40	C4	理論	事業論	1.5	レクリエーション活動の安全管理		
								12:40～13:30					昼食		
	1,000							13:30～15:00	C2	理論	事業論	1.5	集団を介して個人にアプローチするレク事業の計画		
	1,000							15:00～16:30	C3	理論	事業論	1.5	市民を対象としたレク事業の計画		
								16:30～17:00					オリエンテーション		
3,900	2,000		大会議室	第8回	9月6日(日)	9:30～12:30	H2	演習	演習7	3.0	ニュースポーツ「ラダーゲッター」に挑戦				
								12:30～13:20					昼食		
	1,000							13:20～14:50	G5	演習	演習5	1.5	達人に学ぼう! レクゲーム		
	1,300							14:50～16:50	H3	演習	演習8	2.0	心にしみる演出～キャンドルサービス～		
								16:50～17:00					オリエンテーション		
3,600	1,000		第一&第三会議室	第9回	9月27日(日)	9:30～11:00	E5	実習	レクワーク	3.0	指導実習1-1				
	1,000						E6	実習			指導実習1-2				
								12:30～13:15					昼食		
	1,000							13:15～14:45	F3	実習	レクワーク	3.0	指導実習2-1		
	1,000							14:45～16:15	F4	実習			指導実習2-2		
								16:15～17:00					閉講式(資格取得に向けて)		

平成28年度 プログラム

受講料(円)			会場	回	月日	時間	区分	科目名		単位	学習テーマ
全課程	各回	コマ取り									
28,000	2,700	1,000	軽運動室	第1回	5月22日(日)	9:45~10:00					受付
						10:00~10:20					開講式
						10:30~12:00	A1	理論	基礎理論	1.5	レクリエーションの意義
						12:00~13:00					昼食
						13:00~14:30	D3	実技	コミワークⅢ	1.5	「アイスブレイキング」とは ～アイスブレイキングゲーム①～
						14:30~16:00	D4	実技	コミワークⅣ	1.5	アイスブレイキングのプログラミング ～アイスブレイキングゲーム②～
						16:00~17:00					オリエンテーション(資格取得に先立って)
	2,700	1,000	軽運動室	第2回	6月5日(日)	10:30~12:00	B2	理論	支援論	1.5	少子高齢社会の課題と レクリエーション
						12:00~13:00					昼食
						13:00~14:30	G1	演習	演習1	1.5	スイッチ体操
						14:40~16:10	G2	演習	演習2	1.5	レクダンス～日レク推奨ダンス60選より～
						16:10~17:00					オリエンテーション
	3,900	1,000	軽運動室・野外	第3回	6月19日(日)	9:30~11:00	B1	理論	支援論	1.5	ライフスタイルとレクリエーション
						11:00~12:30	B3	理論	支援論	1.5	地域とレクリエーション
						12:30~13:30					昼食
						13:30~16:30	G3	演習	演習3	3.0	自然の中で遊ぶ ～自然あそび・ネイチャーゲーム～
	3,000	1,000	第4競技場	第4回	7月3日(日)	9:30~11:00	F1	実技	レクワーク	1.5	対象にあわせたレク・ワークとは ～子どもと楽しむレクリエーション①～
						11:00~12:30	F2	実技	レクワーク	1.5	対象にあわせたアレンジ法の応用 ～子どもと楽しむレクリエーション②～
						12:30~13:30					昼食
						13:30~16:00	H1	演習	演習4	2.5	記録に挑戦! チャレンジ・ザ・ゲーム
	3,600	1,000	軽運動室	第5回	7月17日(日)	9:30~11:00	A2	理論	基礎理論	1.5	レクリエーション運動を支える制度
						11:00~12:30	A3	理論	基礎理論	1.5	レクリエーション・インストラクターの役割
						12:30~13:30					昼食
						13:30~15:00	E1	実技	レクワーク	1.5	目的にあわせたレク・ワークとは ～高齢者と楽しむレクリエーション①～
						15:00~16:30	E4	実技	レクワーク	1.5	対象者間の相互作用の活用 ～高齢者と楽しむレクリエーション②～
						16:30~17:00					オリエンテーション
	3,600	1,000	軽運動室	第6回	8月7日(日)	9:30~11:00	D1	実技	コミワークⅠ	1.5	ホスピタリティとは～おもてなしの心を学ぶ～ ～ホスピタリティ・トレーニング①～
						11:00~12:30	D2	実技	コミワークⅡ	1.5	心地よく安心して楽しく! ホスピタリティの示し方 ～ホスピタリティ・トレーニング②～
						12:30~13:30					昼食
						13:30~15:00	E2	実技	レクワーク	1.5	素材・アクティビティの選択 ～日レク推奨レク・ゲーム60選より①～
						15:00~16:30	E3	実技	レクワーク	1.5	素材・アクティビティの提供 ～日レク推奨レク・ゲーム60選より②～
						16:30~17:00					オリエンテーション
	3,600	1,000	軽運動室	第7回	8月21日(日)	9:30~11:00	C1	理論	事業論	1.5	レクリエーション事業とは
						11:00~12:30	C4	理論	事業論	1.5	レクリエーション活動の安全管理
						12:30~13:30					昼食
						13:30~15:00	C2	理論	事業論	1.5	集団を介して個人にアプローチする レク事業の計画
						15:00~16:30	C3	理論	事業論	1.5	市民を対象としたレク事業の計画
						16:30~17:00					オリエンテーション
	3,900	2,000	軽運動室	第8回	9月4日(日)	9:30~12:30	H2	演習	演習5	3.0	ニュースポーツ「ラダーゲッター」に挑戦
						12:30~13:10					昼食
						13:10~14:40	G4	演習	演習6	1.5	ソング～日レク推奨ソング60選より～
						14:50~16:50	H3	演習	演習7	2.0	心にしみる演出～キャンドルサービス～
16:50~17:00										オリエンテーション	
3,600	1,000	軽運動室 & 第4競技場	第9回	9月25日(日)	9:30~11:00	E5	実習	レクワーク	3.0	指導実習1-1	
					11:00~12:30	E6	実習			指導実習1-2	
					12:30~13:15					昼食	
					13:15~14:45	F3	実習	レクワーク	3.0	指導実習2-1	
					14:45~16:15	F4	実習			指導実習2-2	
					16:15~17:00					閉講式(資格取得に向けて)	

平成29年度 プログラム

受講料(円)			会場	回	月日	時間	区分	科目名		単位	学習テーマ
全課程	各回	コマ取り									
28,000	2,700	1,000	軽運動室	第1回	5月21日(日)	9:45~10:00					受付
						10:00~10:20					開講式
						10:30~12:00	A1	理論	基礎理論	1.5	レクリエーションの意義
						12:00~13:00					昼食
						13:00~14:30	D3	実技	コミワークⅢ	1.5	「アイスブレーキング」とは ～アイスブレーキングゲーム①～
						14:30~16:00	D4	実技	コミワークⅣ	1.5	アイスブレーキングのプログラミング ～アイスブレーキングゲーム②～
						16:00~17:00					オリエンテーション(資格取得に先立って)
	2,700	1,000	軽運動室	第2回	6月4日(日)	10:30~12:00	B2	理論	支援論	1.5	少子高齢社会の課題と レクリエーション
						12:00~13:00					昼食
						13:00~14:30	G1	演習	演習1	1.5	スイッチ体操
						14:40~16:10	G2	演習	演習2	1.5	レクダンス
						16:10~17:00					オリエンテーション
	3,000	1,000	軽運動室・野外	第3回	6月18日(日)	9:30~11:00	B1	理論	支援論	1.5	ライフスタイルとレクリエーション
						11:00~12:30	B3	理論	支援論	1.5	地域とレクリエーション
						12:30~13:30					昼食
						13:30~16:00	G3	演習	演習3	2.5	自然の中で遊ぶ ～自然あそび・ネイチャーゲーム～
						16:00~16:30					オリエンテーション
	3,900	1,000	第3競技場	第4回	7月9日(日)	9:30~11:00	F1	実技	レクワーク	1.5	対象にあわせたレク・ワークとは ～子どもと楽しむレクリエーション①～
						11:00~12:30	F2	実技	レクワーク	1.5	対象にあわせたアレンジ法の応用 ～子どもと楽しむレクリエーション②～
						12:30~13:15					昼食
						13:15~16:45	H1	演習	演習4	3.5	記録に挑戦! チャレンジ・ザ・ゲーム
						16:45~17:00					オリエンテーション
	3,600	1,000	県スポーツ会館	第5回	7月23日(日)	9:30~11:00	A2	理論	基礎理論	1.5	レクリエーション運動を支える制度
						11:00~12:30	A3	理論	基礎理論	1.5	レクリエーション・インストラクターの役割
						12:30~13:30					昼食
						13:30~15:00	E1	実技	レクワーク	1.5	目的にあわせたレク・ワークとは ～高齢者と楽しむレクリエーション①～
						15:00~16:30	E4	実技	レクワーク	1.5	対象者間の相互作用の活用 ～高齢者と楽しむレクリエーション②～
						16:30~17:00					オリエンテーション
						3,600	1,000	軽運動室	第6回	8月6日(日)	9:30~11:00
	11:00~12:30	D2	実技	コミワークⅡ	1.5						心地よく安心して楽しく! ホスピタリティの示し方 ～ホスピタリティ・トレーニング②～
	12:30~13:30										昼食
	13:30~15:00	E2	実技	レクワーク	1.5						素材・アクティビティの選択 ～日レク推奨レク・ゲーム60選より①～
	15:00~16:30	E3	実技	レクワーク	1.5						素材・アクティビティの提供 ～日レク推奨レク・ゲーム60選より②～
	16:30~17:00										オリエンテーション
	3,600	1,000	軽運動室	第7回	8月20日(日)						9:30~11:00
						11:00~12:30	C4	理論	事業論	1.5	レクリエーション活動の安全管理
						12:30~13:30					昼食
						13:30~15:00	C2	理論	事業論	1.5	集団を介して個人にアプローチする レク事業の計画
						15:00~16:30	C3	理論	事業論	1.5	市民を対象としたレク事業の計画
						16:30~17:00					オリエンテーション
						3,900	2,000	第3競技場&軽運動室	第8回	9月3日(日)	9:30~12:30
	12:30~13:10										昼食
13:10~14:40	G4	演習	演習6	1.5	ソング～日レク推奨ソング60選より～						
14:50~16:50	H3	演習	演習7	2.0	心にしみる演出～キャンドルサービス～						
16:50~17:00					オリエンテーション						
3,600	1,000	軽運動室	第9回	9月24日(日)	9:30~11:00	E5	実習	レクワーク	3.0	指導実習1-1	
					11:00~12:30	E6	実習			指導実習1-2	
					12:30~13:15					昼食	
					13:15~14:45	F3	実習	レクワーク	3.0	指導実習2-1	
					14:45~16:15	F4	実習			指導実習2-2	
					16:15~17:00					閉講式(資格取得に向けて)	

### (1) 実態調査のためのアンケート対象者

平成27年度から平成29年度の3カ年において、レク・インストラクター養成講習会に受講申込みを行い、初回（第1回）と最終回（第9回）に出席した受講者を調査の対象とした。なお表2は、受講者の所属先をまとめたものである。

表2 受講者の所属先

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	3カ年の合計
福祉関係	8人	13人	6人	27人(31.0%)
医療関係	2人	1人	1人	4人(4.6%)
保育・幼児教育関係	2人	3人	5人	10人(11.5%)
学校・教育支援関係		2人	4人	6人(6.9%)
健康・スポーツ関係	4人	2人	1人	7人(8.0%)
行政・公的団体		2人	1人	3人(3.4%)
一般企業	2人	1人	2人	5人(5.7%)
大学生		4人	2人	6人(6.9%)
無職			1人	1人(1.1%)
未記入	4人	7人	7人	18人(20.7%)

### (2) 調査期間と調査方法

各年度のレク・インストラクター養成講習会において、初回（第1回）と最終回（第9回）の受講終了後に受講生一人一人に選択式のアンケート（自由記述あり、無記名）を配布し回収した。各年度の第1回と第9回の受講者数、回答者数、回答率は以下の通り。

#### <平成27年度>

開催回	受講者数	回答者数	回答率
第1回	22名	18名	81.8%
第9回	19名	19名	100%

#### <平成28年度>

開催回	受講者数	回答者数	回答率
第1回	35名	34名	97.1%
第9回	35名	23名	65.7%

#### <平成29年度>

開催回	受講者数	回答者数	回答率
第1回	30名	21名	70.0%
第9回	30名	22名	73.3%

### (3) 調査内容

第1回と第9回の両方の質問項目

- ・性別
- ・年齢

第1回のみ質問項目

- ・本講習会を何で知りましたか

- ・本講習会の受講料は（現時点での印象）
  - ・受講目的を教えてください（2つまで可）
  - ・関わりを持つ主な対象者は（複数回答可）
- 第9回のみ質問項目
- ・本講習会の受講料は（受講を終えての印象）
  - ・本講習会の満足度は
  - ・講習会場は適当か（全講座を通して）

## 3 結果と考察

### (1) 受講者の性別

各年度の第1回、第9回それぞれの受講者数と男女比は以下の通り。

表3 質問「性別」への回答

開講年度	第1回			第9回		
	男性	女性	未記入	男性	女性	未記入
平成27年度	2人 (11.1%)	16人 (88.9%)		2人 (10.5%)	15人 (78.9%)	2人 (10.5%)
平成28年度	6人 (17.6%)	26人 (76.5%)	2人 (5.9%)	3人 (13.0%)	16人 (69.6%)	4人 (17.4%)
平成29年度	4人 (19.0%)	17人 (81.0%)		4人 (18.2%)	12人 (54.5%)	6人 (27.3%)

いずれの開講年度においても「女性」の受講者が半数以上。最も多いのは平成27年度の第1回で88.9%となっており、女性のレク・インストラクター養成講習会への関心度の高さがうかがえる。

第1回に比べ、第9回では性別の未記入が目立つ。この原因については今回の調査では明らかとなっていないため今後の課題としたい。

### (2) 年齢

表4 質問「年齢」への回答

年代	平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	第1回	第9回	第1回	第9回	第1回	第9回
①10代			2人	2人	1人	
②20代	1人	2人	3人	2人	1人	3人
③30代	2人	1人	3人	2人	3人	2人
④40代	5人	4人	6人	3人	5人	6人
⑤50代	5人	9人	15人	8人	6人	6人
⑥60代	3人	3人	5人	6人	5人	4人
⑦70代以上						
未回答	2人					1人

いずれの開講年度も50代の受講者が最も多く、次いで40代と60代となっている。第9回においても50代の受講者が最も多く、学習を継続する意欲が高いと考えられる。10代の受講者が少ない原因としては、レクリエーション・インストラクター資格の取



図1 レクリエーション実技の指導風景

得条件が18歳以上であること。また課程認定校制度により大学、短期大学、専門学校で取得を目指す者が多いのではないかと考える。

### (3) 本講習会を何で知りましたか

表5 質問「本講習会を何で知りましたか」への回答

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	3カ年の合計
①県レク協会HP	4人	17人	6人	27人(37.0%)
②チラシ(施設へのDM)		3人	4人	7人(9.6%)
③チラシ(備え付け)	1人	4人	2人	7人(9.6%)
④友人・知人	8人	4人	1人	13人(17.8%)
⑤職場関係者	1人	2人	4人	7人(9.6%)
⑥県レク協会関係者	1人		4人	5人(6.8%)
⑦その他	3人	4人		7人(9.6%)

受講生の募集にあたっては、4通りの方法をおこなっている。具体的には、①愛知県レク協会のHP(ホームページ)への掲出、②チラシの配布として関係施設へのDM(ダイレクトメール)、③愛知県内の公共施設へのチラシ備え付け、④愛知県レク協会会員へのチラシの郵送である。

回答数が多いものを順にあげると、「県レク協会HP」(37.0%)、「友人・知人」(17.8%)となっている。ちなみに「友人・知人」(17.8%)に「職場関係者」(9.6%)、県レク協会関係者(6.8%)を加えた「口コミ」という観点でみると34.2%となり、口コミが募集に役買っていることが分かる。

しかし、この口コミの基となる情報は県レク協会HPや配布されたチラシから得たとも考えられるため、それぞれの媒体が作用し合って申込みにつながった可能性も無視できない。

### (4) 受講目的を教えてください(2つまで可)

表6 質問「受講目的を教えてください(2つまで可)」への回答

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	3カ年の合計
①仕事に生かすため	14人	23人	15人	52人(50.0%)
②ボランティア活動に生かすため	3人	8人	5人	16人(15.4%)
③学習として	3人	9人	6人	18人(17.3%)
④起業のため		1人	2人	3人(2.9%)
⑤レクコーディネーターや福祉レクワーカー取得のため	2人	8人	4人	14人(13.5%)
⑥その他				
未回答		1人		1人(1.0%)

「仕事に生かすため」が50%を占めており、レク・インストラクター養成講習会で得た、知識や技術を職場で生かしたいと考えていることが分かる。

これは、受講者の所属先が多い順に「福祉関係」(31.0%)、「保育・幼児教育関係」(11.5%)、「健康・スポーツ関係」(8.0%)である点からも関連性がみとれる。

また、レクリエーション・インストラクターを基礎に、さらに学習を積むと取得可能な「レクリエーション・コーディネーター」や「福祉レクリエーションワーカー」の取得のための理由にあげている者も13.5%と多く、自己研鑽とともに仕事に生かす知識・技術をさらに磨きたいという意欲を感じ取ることができる。

### (5) 関わりを持つ主な対象者は(複数回答可)

表7 質問「関わりを持つ主な対象者は(複数回答可)」への回答

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	3カ年の合計
①高齢者	13人	23人	10人	46人(37.4%)
②幼児	4人	12人	5人	21人(17.1%)
③児童・生徒	6人	9人	8人	23人(18.7%)
④学生	4人	5人	2人	11人(8.9%)
⑤障がい者		6人	4人	10人(8.1%)
⑥その他	3人	6人	1人	10人(8.1%)
未回答		1人	1人	2人(1.6%)

受講者が主に対象として関わっているのは「高齢者」(37.4%)、「児童・生徒」(18.7%)、「幼児」(17.1%)となっている。この結果は、受講者の所属先が多い順に「福祉関係」(31.0%)、「保育・幼児教育関係」(11.5%)である点からも関連性がみとれる。

しかし、この設問においては、複数回答を可としたため、例えば「幼児」「児童」「障がい者」の3つを選択する者もあり、それぞれを対象にしているのか、あるいは児童デイサービスセンターで障がい児を対象にしているのかが曖昧になってしまった。よ



図2 グループワークによる演習風景

り正確な情報を得るため、今後は具体的な活動内容と対象者を結びつけた設問となるよう工夫したい。

#### (6) 本講習会の満足度は

表8 質問「本講習会の満足度は」への回答

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	3カ年の合計
①満足	8人	12人	8人	28人(43.8%)
②ほぼ満足	10人	11人	13人	33人(53.1%)
③どちらかと言えば不満	1人		1人	2人(3.1%)
④不満				

「ほぼ満足」が53.1%、「満足」が43.8%となっており、96%以上の受講者が講習会に対して満足している様子が見えてくる。

#### (7) 講習会場は適当か(全講座を通して)

表9 質問「講習会場は適当か(全講座を通して)」への回答

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	3カ年の合計
①適当	6人	9人	4人	19人(29.7%)
②おおむね問題ない	10人	11人	14人	35人(54.7%)
③狭い	3人	2人		5人(7.8%)
④広い				
未回答		1人	4人	5人(7.8%)

「おおむね問題ない」が54.7%、「適当」が29.7%となっており、84%以上の受講生が第1回から第9回までの全講座を通して大きな問題を感じなかったことが分かる。

しかし、未回答の5人は選択肢にマークが無いものの、いずれも「暑かった」と欄外に記入している。

また「おおむね問題なかった」と回答している者の多くが、「上の階の音がうるさかった」とコメントを寄せており、「講習内容に対する適切な会場設

定という観点」よりも「快適な学習環境が得られたかという観点」で回答したと考えられる。

愛知県レク協会主催のレク・インストラクター養成講習会の会場は愛知県レク協会の事務所を間借りしている愛知県スポーツ会館となっている。そのため早い段階で夏場の暑さや講習内容を考慮した部屋選びを心がけているものの、県の行事や県の外郭団体の行事により、プログラム確定後に部屋の予約の変更を余儀なくされることがある。このため当初計画していた部屋よりも狭い部屋になったり、エアコンのない競技場になることもあり、この点において受講者のアンケートに「狭い」や「暑かった」という回答が出されたと考えられる。

#### (8) 本講習会の受講料は

(第1回：現時点での印象)

(第9回：受講を終えての印象)

表10 質問「本講習会の受講料は」への回答

	平成27年度	第1回	第9回
①高い			3人(15.8%)
②どちらかと言えば高い	3人(16.7%)		8人(42.1%)
③妥当	5人(27.8%)		7人(36.8%)
④どちらかと言えば安い	2人(11.1%)		
⑤安い			1人(5.3%)
未回答	8人(44.4%)		

	平成28年度	第1回	第9回
①高い		1人(2.9%)	1人(4.5%)
②どちらかと言えば高い	8人(23.5%)		6人(27.3%)
③妥当	22人(64.7%)		14人(63.6%)
④どちらかと言えば安い	2人(5.9%)		
⑤安い			
未回答		1人(2.9%)	1人(4.5%)

	平成29年度	第1回	第9回
①高い			1人(4.5%)
②どちらかと言えば高い	6人(28.6%)		9人(40.9%)
③妥当	14人(66.7%)		11人(50.0%)
④どちらかと言えば安い			
⑤安い		1人(4.8%)	
未回答			1人(4.5%)

いずれの年度においても、受講料の印象は第1回の受講後に比べ、第9回の受講後の方が、「高い」という印象に寄っていることが分かる。先の「本講習会の満足度は」という設問の回答では、96%以上の受講生から満足な様子が見えてきたにもかかわらず、受講料においては「高い」という印象の方に变化しており、講習会全体の満足度が高いからといっ

て、それにより受講料が妥当ないしは安いという印象になるとは限らないことが分かった。

#### 4 むすびに代えて

以上、平成27年度から平成29年度のレク・インストラクター養成講習会の受講者に対するアンケート結果を紹介し、若干の考察をおこなった。そして、このことを通じて、今後の生涯学習の場としてのレクリエーション講習会を考えるうえで取り組まなければならない課題の一部を析出する作業を遂行したといえる。

今回の実態調査から、講習会全体の満足度が高いと、それにより受講者は受講料に対して「妥当」ないしは「安い」という印象を持つと思いがちだが、必ずしもそうではないということが分かった。

また講習の内容もさることながら、「騒音」や「室温」への配慮といった講習に集中できる学習環境の整備が大切であると分かった。

さらにレクリエーション講習会には福祉・保育関係の職場で働く中高年女性の参加ニーズが高く、その受講目的として「仕事に生かすため」というスキルアップを考えていることが分かった。この点に着目して言えば、これまで介護職員の養成に関連するレクリエーション教育は、常に新しい形を模索しながら展開されてきた。昭和62年に「社会福祉士および介護福祉士法」が制定され、介護福祉士が身に付けておかなければならない知識の一つとして「レクリエーション指導演法」が介護福祉士養成課程の必須科目として位置づけられた。平成12年には「レクリエーション指導演法」から「レクリエーション活動援助法」に名称変更され実施されてきた。しかし、平成21年の介護福祉士養成課程の改正により、科目「レクリエーション活動援助法」の名称が削除された。また訪問介護員養成研修2級課程においても、科目「レクリエーションに関する演習」が設けられていたが、介護職員初任者研修に変わる際、カリキュラムが見直され、この演習科目名も削除された。稲垣による「介護老人福祉施設におけるレクリエーション活動についての実態調査」によれば、レクリエーション活動をおこなっている施設は90.3%であり、毎日日課として何らかの活動をおこなっている施設は75%と、大半の施設で日中の活動の支援がな

されている。また山本ほかによる「特別養護老人ホームに於けるレクリエーションの現状では：特別養護老人ホーム、高齢者レクリエーション、福祉レクリエーション」によれば88.5%の施設が行事としてレクリエーション活動をおこなっているという結果があり、稲垣ほかによる「岐阜県の福祉レクリエーションの実態調査」では92.3%であった。今回の実態調査の結果も含め、福祉現場ではレクリエーションが活用されていることが分かる。そのため、現場でのレクリエーション支援を見越したレクリエーションの学習の機会の必要性を強く感じるのである。

またレクリエーションを支援する立場になくともレクリエーション活動という生涯学習を通して、仲間とふれあい、心豊かに生活を送ることで、いつまでも元気で長生きするという健康寿命の延伸にもつながると考える。この点において着目すれば、公益財団法人日本レクリエーション協会は、平成29年度よりレクリエーション・インストラクターの養成カリキュラムの一新にあたり、レクリエーションの言葉の主旨（目的）を「人々の心を元気にすること」とした。また齊藤ほかの研究によれば、他者との交流頻度と健康指標（要介護、認知症、死亡）との関係を調査したところ、同居者以外の他者との交流頻度により、その後の健康状態が変化することが分かっていると述べている。その意味で仲間との交流がもてる生涯学習の機会は大変貴重であると考えられる。

これまでのレクリエーション教育の蓄積を基礎としながらも、現代の多様な形態のレクリエーション教育の取り組みに対応すべく、生涯学習の場として



図3 福祉レクリエーション実技の講習風景



のレクリエーション講習会には、今後も創意工夫が必要である。繰り返しになるが、既存の学習内容の見直しに留まらず、レクリエーション教育をいつでも、だれでも受けられる生涯学習の場を用意すること、そしてより良い講習が受けられる学習環境の整備も併せて進めることが課題なのである。

## 引用文献

平成 18 年版文部科学白書

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/html/hpab200601/002/001/003.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab200601/002/001/003.htm)

稲垣貴彦「介護老人福祉施設におけるレクリエーション活動についての実態調査」中部学院大学・中部学院大学短期対学部研究紀要第12号（2011年）129-138頁

稲垣貴彦、結城俊哉、仲村正巳「岐阜県の福祉レクリエーションの実態調査」中部女子短期大学紀要 Vol.25（1995年）233-248頁

山本清洋、黒木邦弘、高橋信行、山本良江「特別養護老人ホームに於けるレクリエーションの現状では：特別養護老人ホーム、高齢者レクリエーション、福祉レクリエーション」鹿児島大学教育学部研究紀要（人文・社会科学編）Vol.47（1996年）71-88頁

公益財団法人日本レクリエーション協会発行「楽しさをおした心の元気づくり～レクリエーション支援の理論と方法」（2017年）6-7頁

斉藤雅茂・近藤克則・尾島俊之、平井寛「健康指標との関連からみた高齢者の社会的孤立基準の検討－10年間の AGES コホートより－」第62巻日本公衆衛生雑誌第3号（2015年）95-105頁